科目名				学年
知的財産法特論 Intellectual property rights S.T.				1K
教員名	堀田幹生 : HORITA Mikio			
単位	授業時間	科目区分	授業形態	
2	100分×15回	選択	講義・前期	

授業概要	知的財産に関する基本的な知識を踏まえた上で、より具体的な例を通して、知的財産についての理解を深める。

到達目標	評価方法
1. 特許法、実用新案法、意匠法、商標法のそれぞれについて、保護対象、登録要件、権利の内容について理解する。 2. 特許明細書の意義を理解し、特許明細書作成の基本を身につける。 3. 権利侵害事件を想定して、権利行使の実際と、防御方法について学ぶ。 4. 実施許諾を通して、特許の利用、流通について学ぶ。	評価方法は、①中間試験、②期末試験。評価配分は①50%②50%とする。

学習・教育目標	(C)④	JABEE基準1(1)	(b)

授業計画

回	項目	内容
第1 第2	知的財産権全般 特許要件(一般論)	1知的財産権の種類 2特許制度の趣旨 3特許法上の発明 4特許要件の種類 5外国出願
第3 第4	特許要件(具体例)	1新規性 2進歩性 3先願性 4実例に基づく演習
第5 第6	特許明細書 特許権の権利範囲	1特許請求の範囲の役割(独立項と従属項) 2明細書の記載事項 3実例に基づく演習
第7 第8	特許出願から登録までの手続 先行技術調査 実用新案制度	1特許出願から登録までの手続、審査の流れ 2拒絶理由通知への対応(補正の方法) 3特許庁電子図書館による先行技術調査 4実用新案制度の特徴(特許制度との違い)
第9 第10	意匠法	1意匠法の保護対象 2意匠登録要件 3意匠権の効力 4意匠独自の制度 5著作権との相違
第11 第12	商標法	1商標法の保護対象 2商標登録要件 3商標権の効力 4商標の類比判断(演習)
第13 第14	権利行使の実際 実施許諾	1特許権の権利行使と防御方法 2商標権の権利行使と防御方法 3専用実施権と通常実施権
第15	まとめ	全体の学習事項のまとめを行う. また授業評価アンケートを行う.

自学自習の内容	各項目に沿った課題をレポートとして課す.
関連科目	
教科書	
参考書	
授業評価・理解度	最終回に授業評価アンケートを行う.
副担当教員	武藤義彦
備考	